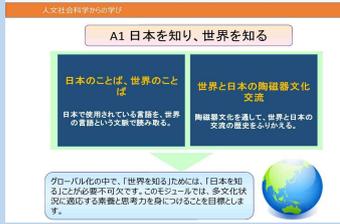


## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	22-A1 日本を知り、世界を知る		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	野上 建紀	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本（と日本人）を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
日本のことばと世界のことば	原田 走一郎	日本語は敬語があって美しい、などと言われるが本当だろうか。そんなことを言う人は言語に対する知識が決定的に欠如している、ということが本講義でわかる。日本で使用されている言語を世界の言語という文脈で観察することで、自分自身の言語を相対的に見る訓練をする。	言語学 言語類型論 方言
世界と日本の陶磁器文化交流	野上 建紀	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も重要なものの一つである。世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となっている。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりについて理解を深める。	陶磁器 文化交流 考古学

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えるやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点	
											A 人文学科の内容を取り扱う	B 社会科学の内容を取り扱う
日本のことばと世界のことば	◎						◎			○	◎	
世界と日本の陶磁器文化交流	◎						◎			○	◎	○
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0
○（重視）の数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1

## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	22-A2 現代経済と企業活動		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井畑 陽平	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立しています。そして、この経済活動は様々な法律によって規制され、公平で公正な経済活動の実現が図られています。本モジュールの履修により、経済活動と法律の関わりを法律学の体系に沿って学ぶことが可能になります。		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識はとくに問いませんが、経済や法律について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望します。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講してください。</p>	説明動画	

科目名	担当者名	概要	キーワード
生活・経済活動と法	井畑 陽平	生活や経済活動をする上で生じる問題について、法律が、実際どのように解決しているのかを学習する。	民事法、刑事法、行政法
企業活動と社会	林 麗桂	本講義では、企業、学校、病院、行政機関、ボランティア団体など様々な組織に焦点を当て、「組織とは何か」について基本的概念を中心に学ぶ。	経営学、経営組織論

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応											※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う
生活・経済活動と法	◎		○	○	◎	○			○			◎
企業活動と社会	◎	○					○			○		◎
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
○（重視）の数	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 教養モジュール科目案内

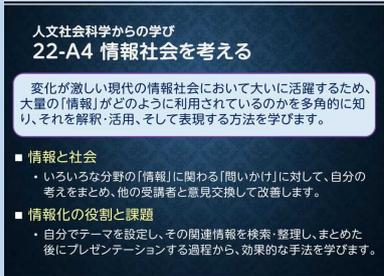
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	22-A3 核兵器のない世界を目指して		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣 旨	<p>広島・長崎の被爆から76年を経てなお、核兵器の廃絶と恒久平和の実現は人類の悲願であり続けている。その中で世界唯一の被爆医科大学を創基に持つ長崎大学として、「核なき世界の実現」は大学の存在意義の根源に関わる課題であるが、長崎大学に学ぶ学生としても共有すべき認識となることを願う。</p> <p>本モジュールは被爆地長崎で、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないために、世界から核兵器を廃絶するために必要な具体的な知識やアプローチを様々な角度から学ぶことを目的とする。その際、国際政治学・国際法・社会学・倫理学・教育学・環境・医学・平和学など幅広い学問分野の基礎にたつて学び、考察する。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>核兵器の問題をめぐり、いま世界は大きな転機を迎えています。核兵器廃絶を求める国際世論の高まりを背景に、2021年1月には核兵器を全面的に違法とする「核兵器禁止条約」が発効しました。しかしその一方で、世界には未だ約1万3千発以上の核兵器が存在し、核兵器廃絶実現の兆しは見えません。被爆者をはじめ、世界中の市民が訴えてきた核兵器廃絶がなぜ未だに実現できないのでしょうか。そして、どのようにすれば実現できるのでしょうか。本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ」に答えるとともに、「過去」「現在」「未来」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりをみなさんと考えていきたいと思います。長崎大学に学んだことの証となるような特色のあるモジュールです。</p>	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
核兵器とは何か	中村 桂子	「核兵器」とは何か、その基本的な仕組み、広島・長崎での実際を含むその効果、抑止概念、核兵器政策の歴史的変遷と現状、核軍備管理・軍縮・不拡散努力の歴史と現状、市民社会の動きなどを学ぶ。	核兵器、軍備管理、軍縮、不拡散、抑止、市民社会、NGO
国際社会と平和	広瀬 訓	「核兵器」という存在の背景にある国際社会の特徴と仕組み、戦争・紛争に関する問題、「平和」を実現するためのこれまでの取組みなどについて学び、現代における平和とは何かを多様な視点から考える。	国際社会、平和、紛争、安全保障、人権

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応											※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	取り扱う 人文科学の内容を
核兵器とは何か	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎		◎
国際社会と平和	◎	○	◎	○	◎	◎	◎			◎	○	◎
◎（特に重視）の数	1	1	2	0	2	2	2	0	1	2	0	2
○（重視）の数	1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	22-A4 情報社会を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	丹羽 量久	責任部局	ICT 基盤センター
趣 旨	現代の情報社会を積極的に生きるためには大量の「情報」をうまく活用していかなければなりません。本モジュールでは、こうした情報社会に適応するために、情報が実社会ではどのように利用されているのかを多角的に知り、かつそれを解釈・活用・表現するための方法について学びます。		
学生の皆さんへのメッセージ	今日の社会では、大学での学習・研究だけでなく、どんな場面でも「情報活用」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、本モジュールにてさまざまな知識と技能を身につけてください。	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
情報と社会	丹羽 量久 福澤 勝彦 鈴木 斉 上繁 義史	授業では、四名の教員がそれぞれの専門分野を取り上げて、実社会における「情報」について講義し、皆さんに問いかけます。この問いかけに応える形で自分の考えをまとめ、さらに、受講者間の相互評価から自分の考えを洗練させます。	情報の価値 情報の結合・活用 人工知能 生体認証 情報の可視化
情報化の役割と課題	丹羽 量久	情報化により時間的・集積的・共有的などさまざまな価値が生まれます。この社会で実際に情報化された事例を取り上げて、その価値・応用について調べ、考えます。情報社会における情報化の役割・価値・課題について理解し、説明できることを目標とします。	情報社会 情報システム デジタル情報

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点		
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への取り扱う	A	B
情報と社会	◎	○	○		◎	○	◎	◎	◎			○	○
情報化の役割と課題	◎	◎	○	○	○		○	◎	○				○
◎（特に重視）の数	2	1	0	0	1	0	1	2	1	0		0	0
○（重視）の数	0	1	2	1	1	1	1	0	1	0		1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 教養モジュール科目案内

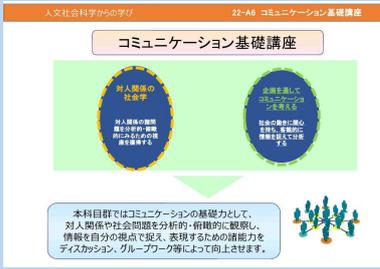
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	22-A5 国際社会を理解するための多様な視点		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	松村 真樹	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	<p>グローバル化が進む現在、将来国際的な業務に携わるか否かに関わらず、世界情勢に無関心なままではいられなくなっています。このモジュールは、短期間で現状を理解し、広く浅く国際社会の状況を把握するために必要な基礎知識や歴史的背景を学び、地球市民の一人としてグローバル社会への関心を高めることを目的とします。まず、グローバル社会の多様性を理解するために、人口分布および人口構造とその変化を人口学的に把握する方法を学び、さらにグローバル社会が直面しているさまざまな課題を具体的事例から考察します。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>最近の若者は海外に目を向けなくなったとか、世界の出来事に関心を持たなくなったという人たちがいます。我が国の長きにわたる経済停滞に加えて、収束の見通しが困難なパンデミックによって若い人たちがますます内向きになってしまうのではないかという危惧もあります。しかし、日本に居ても世界情勢に関する情報を取り入れる方法はたくさんあります。重要なのは、普段からそうした情報を理解するための基礎知識を身につけておくことです。さらに、国際言語である英語による情報ソースに精通していることも役立つでしょう。</p>	説明動画	

科目名	担当者名	概要	キーワード
人口学で見る世界の多様性	松村 真樹	出生、死亡、移動に関する人口統計、従属人口指数、人口転換論などを使って、世界人口の変化と多様性および人口動態と人口構造の変化に関連して生じる課題を考察する。	人口転換 少子高齢化 国際人口移動
グローバル化時代の社会問題	松村 真樹	貧困と格差、不平等、民族や宗教の違いから生じる摩擦、移民や難民が直面している軋轢、気候変動、パンデミックなどの課題について具体的事例を概観する。	貧困・格差 不平等 環境・健康

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応											※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力	国際・地域社会への関心	取り扱う人文科学の内容を	取り扱う社会科学の内容を
人口学で見る世界の多様性	◎	○	◎	◎	○		◎			◎	○	◎
グローバル化時代の社会問題	○		◎		◎		◎	○	◎	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	1	0	2	1	1	0	2	0	1	2	0	2
○（重視）の数	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	22-A6 コミュニケーション基礎講座		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	岡田 佳子	責任部局	教育開発推進機構
趣 旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。我々は皆、特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ってきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえているコミュニケーションにまつわる対人関係や社会問題など、自分が置かれた文化的・社会的な諸状況を俯瞰的に分析するための視座をもつことが、自分と異なる他者と関わるうえで非常に重要な課題となります。そのため、本科目群では、対人関係や社会問題に関し、多様な見方や分析的な視点を持つこと、そしてその視点を活かして実際に他者とコミュニケーションをとるための表現力・ディスカッション力等の諸能力を育成することを目指します。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>このモジュールでは自分の経験や社会的・地域的な課題について客観的・分析的に捉え直す視点を培い、考え、表現する力をつけていくことをねらいとしています。そのため、本モジュールでは、皆さんの積極的な参加が不可欠です。授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが求められます。本モジュールではグループワークや課題の配点を高くしています。そのため、受動的に授業を受けたい人には不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。社会の中にある様々な問題について一緒に考えていきましょう。</p>	説明動画	

科 目 名	担 当 者 名	概 要	キ ー ワ ー ド
対人関係の社会学	岡田 佳子	成長と共に広がる人間関係の中で身についていく思考やふるまい、関係性について理解を深める。また、協同学習を通して人の多様性について考える力を身につける。	社会化・家族・ジェンダー・学校文化・社会階層
企画を通してコミュニケーションを考える	松井 史郎	社会は様々な「企画」で動いています。どのようなコミュニケーションを生み出すことを意図して企画が作られているのか、そのプロセスや作り手の意図を理解する努力を通してコミュニケーションの在り方を考えます。	社会ニーズ・態度変容、行動変容・広告・プランニング

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応											※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	取り扱う人文科学の内容を	取り扱う社会科学の内容を
対人関係の社会学	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎
企画を通してコミュニケーションを考える	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	0	2	0	1	2	1	2	1	2	1	0	2
○（重視）の数	2	0	2	1	0	1	0	1	0	1	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	22-A7 国際開発入門と日本文化史入門 (英語開講)		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下 龍	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	<p>海外へ留学する際、自身のアイデンティティを確立することは重要で、その中でも自国の文化や歴史そして国際的な立ち位置を説明できるようになることは必須です。本テーマでは、「日本文化史」と「国際開発」について英語で学んでいき、またそれを英語で発信できる知識や力を身につけることを目指します。</p> <p>日本という国が過去にどのような歴史を歩んで来たのか、そしてグローバル社会である今、どのような国際開発を歩んできているのかを学んでいきます。このモジュールでは、ローカルとグローバルの視点を繋ぎながら、日本と世界が向き合うさまざまな課題について考えを深めていきます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>このモジュールでは留学生を主な受講対象者としていますが、これから海外の大学へ留学することを目指している学生や、英語による発信力を高めたい学生の受講も歓迎します。国際経験豊かな講師陣とともに、より実践的な内容を英語で講義します。是非講師と一緒に英語も鍛えましょう。</p> <p style="color: red;">※このテーマの科目はすべて英語で授業が実施されます。                  テーマを選択した後に、1年生の途中でテーマを変更することはできませんので、ご注意ください。</p>		説明動画
			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
Introduction to Japanese Culture and History	山下 龍	この講義では、日本の文化や社会を理解するために不可欠な明治末期までの歴史的な知識を楽しく学ぶことができます。	日本史・日本文化史・日本文化
Introduction to International Development	青木 恒憲	国際協力に関する主要な概念、課題、仕組み、アクター、日本の実例を学び、開発途上国との関わりを議論します。	国際協力、開発援助、SDGs、貧困、JICA、ボランティア、民間連携

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応											※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	取り扱う 人文科学の内容を
Introduction to Japanese Culture and History	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○
Introduction to International Development	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
◎ (特に重視) の数	1	1	1	2	1	0	2	1	2	2	1	1
○ (重視) の数	1	1	1	0	1	2	0	1	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目